



2022(仏暦2565)年 9月号 (第132号)

万行寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



■住職法話

じやけんさようまん あくしゆじょう
邪見憍慢の悪衆生

■浄土真宗 (新) 仏事のイロハ

■本願寺の本

感謝の精進料理

■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2021(令和 3)年	23 回忌	2000(平成12)年
3 回忌	2020(令和 2)年	25 回忌	1998(平成10)年
7 回忌	2016(平成28)年	27 回忌	1996(平成 8)年
13 回忌	2010(平成22)年	33 回忌	1990(平成 2)年
17 回忌	2006(平成18)年	50 回忌	1973(昭和48)年

住職 法話

邪見 憍慢の悪衆生

今月の法語

手を合わせ

仏さまを拝むとき

わたしのツノを

知らされる

今月の法語は、浄土真宗本願寺派の僧侶、波北彰真さんが、「中学生はがき通信」という近隣の中学生に宛てた短いお便りからの言葉です。『人生のほほえみく中学生はがき通信』という本にもまとめられて本願寺出版社から出ています。

ツノ 今から七十年前、浅原才市という人がいました

画家に二本のツノが生えている自分の肖像画を描いてもらいました。

ツノは 心の姿

むさぼり・腹立ち・おろかさ

他人のツノはよく見えるが自分のツノには気づかない

手を合わせ

仏さまを 拝むとき

私のツノを 知らされる

貪り・怒り・愚かさの三毒

の煩惱をツノに例え、妙好人の浅原才市さんが肖像画にされたエピソードからきています。

自分のこころのなかにある煩惱を鬼に例え、この鬼の姿が自分の本当の姿であると

伝えようとしています。そして、お参りをして仏さまを拝むときに、このツノに気づかされるといふことです。

「彌陀仏の本願念仏は、邪見 憍慢の悪衆生、信樂受持すること、はなはだもつて難し。難の中の難、これに過ぎたるはなし」

浄土真宗でお勤めする

「正信偈」の中の一節です。同じく煩惱の姿を表しているところでは、「邪見」よこしまな見方、「憍慢」おごり高ぶる心を持ち合わせている衆

生が、本願を喜び、念仏を頂き、それを受けたもつとなど、「難中の難」と言われるほど最も困難なことであると

いうことです。邪見・憍慢の心が妨げとなつているから

です。

「私にはツノなどありません」ではなく、衆生というあらゆるものに「邪見」「憍慢」の心があり、ツノが隠れているだけなのです。手を合わせ仏さまを拝むとき、ツノの生えた自らの本当の姿を知らされるのです。

生が、本願を喜び、念仏を頂き、それを受けたもつとなど、「難中の難」と言われるほど最も困難なことであると

いうことです。邪見・憍慢の心が妨げとなつているから

です。



浄土真宗

④ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて―

「中陰法要と迷信」

悲しみから立ち上がる

機縁として

死亡日から数えて七日目を「初七日」、次の七日目を「二七日」、以後三七日……というように、七日ごとに勤める法要を「中陰法要」と言い、最後の七七(四十九日)は「満中陰(中陰が満つる)」として、特に丁寧に勤める慣わしになっています。

もともと、地域によって命日の前日(遠夜)から七日ごとに勤めるところもあり、日取りについてはお寺にお尋ね

ください。

こうして勤める中陰法要は、前号でもふれたように亡き人への追善のためではなく、むしろ、遺族自身が阿彌陀さまのお心をいただきながら、悲しみから立ち直っていくための機縁となる法要です。

死別の悲しみを乗り越えていく過程をグリーフワークと言いますが、ここでは、四段階の精神状態に分類されています。最初が「ショック期」、一番目が「喪失期」、二番目が「閉じこもり期」、最後が「再生期」です。個人差があるにせよ、こうした遺族の心の動揺と変化に寄り添って、節目、節目に勤めるのが中陰法要なのです。要は、悲しみの中から、私の人生の確かな依りどころを

見出していくことであり、それは阿彌陀さまの大悲のお心を聞き、自分の心で受け取っていくことにほかなりません。その「悲しみと立ち直り」に費やすために与えられている期間が中陰であり、それが約五十日間、と理解すればよいでしょう。

ところが、世間では「四十九日が三ヶ月にわたるといけない」といつ迷信がはびこり、五七日(三十五日)に「満中陰法要をすませてしまおう方がいい」とおられます。

なぜ「四十九日が三ヶ月にわたるといけないか」というと「始終苦(四十九)が身につく(三月)から」というのです。そういう語呂合わせを気にして中陰期間を切り上げるようでは確かな依りどころを得たとは言えません。

定められた中陰の日でないとダメとは申しませんが、迷信に振り回されることだけはやめてください。満中陰に限らず、中陰の法要は出来る限り省略せずにお勤めしましょう。

「浄土真宗 ④ 仏事のイロハ」末
本弘然著／本願寺出版社刊より



～本願寺の本～

「感謝の精進料理」

杉本 節子 著

本願寺出版社 刊 1,760円(税込)

高価な食材や珍しい食材を使わず、旬の野菜や乾物を用い、現代風アレンジを加えたオリジナル精進料理約100種のレシピを掲載。コラムページでは本山の御正忌報恩講や著者の生家である京町家・杉本家のお斎なども紹介する。

亡き人を偲ぶためだけでなく、今、生かされていることをよろこび、あらゆるいのちに感謝する浄土真宗の「お斎」のこころを伝える。

[本願寺出版社ホームページより]



携帯サイト
携帯電話からも商品をご注文いただけます。
QRコードからアクセス→

親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要
立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day
親鸞聖人のご命日です ご参拝ください

浄土真宗本願寺派 龍谷山 本願寺

編集後記

来年から配布物に関して変更をします。◆寺報の紙面を、A4表裏一枚に変更をする予定です。◆お配りしている「法語カレンダー」も、使いやすさを重視した他のものになります。◆そして、「住職法話」をお読み頂いた印として「法語印」というものを新たにお配りします。一般に知られていない「御朱印」がありますが、本来、写経を納めた証として頂くもので、浄土真宗ではお扱いしていません。そこで、法話を聴聞したご縁の証として、法語などが書かれた「法語印」をお渡しするようになりました。◆来年からの変化を楽しみにして下さい。